
遊戯王レイザー LEIZAR

ラウンディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王レイザー LEIZAR

【Nコード】

N2248Y

【作者名】

ラウンディ

【あらすじ】

コスモシティ・・・

この町で新たな伝説がはじまる・・・
ある日遊牙は父からなぞのくびかざりをもらった
そのくびかざり・・・から光はなたれる・・・

光と闇・・・2つの心を持つ少年・・・人は彼を
遊戯王と呼んだ・・・

1話 「DANRAN部」

この小説は遊戯王好きの私が書いている決闘小説です。

オリカ（オリジナルカード）

もあります、心やさしい方はみていてください・・・。

1話 「DANRAN部」

2011年 6月7日

空は青く眩しい太陽の、これでもか！！というほどの光。

毎年見る光・・・

僕はこの光を体中に浴びてそだってきた！（みんなそうなんだけど・・・）

今世界中で流行っているゲーム・・・それがデュエルモンスターズだ。

いま、この中学校ではやっているゲームで3年生の御坂みさかさんは全国大会に出場し、ベスト4にまでのこった天才だ。

しかも御坂みさかさんはスポーツ万能で頭もいいし・・・

それに比べてぼくは・・・

凛りん「遊牙ゆうが！・・・」

遊牙「うわあああ！・・・」

遊牙「り・・・凛か・・・びっくりさせないでよ・・・」

凛「べつにびっくりさせるつもりで話かけたわけじゃないわよ・・・」

うそだ！びっくりしたもん！

凛「教室で窓から空みながらぼくっとしてるから心配になったのよ！・・・」

たしかにぼくっとなっていたかもしれない。

紀村きむら「そうだぞ、ずっと凜はてめえのことしんぱいしてたんだし・

」

紀村・・クラス1のイケメン？でなぜか右目にがんたいをつけている。

斎藤さいとう「・・誰か来たぞ」

ドタバタドタバタ・

そういえば・・放課後なぜここにいるか・・それは・

ガラガラ！！

僕たち4人しかいない教室にドアが乱暴に開く音がする・

拓真たくま「おいつす！！」

そう、拓真くん・・・

拓真（きょうは放課後教室にいるよー！！）

と・・・いわれてここにいたんだけど・・・

拓真「DダンANランRAN部へようこそ！」

紀村「・・・ああ??」

続く

今日の注目カード！

というコーナーをデュエルがあつた回に置きたいと思います

見ていただきありがとうございました

2話 「デュエルディスク」(前書き)

がんばって書きました

2話 「デュエルディスク」

2話 「デュエルディスク」

紀村「DANRAN部だあ!？」

拓真「そうさ!」

凜「ようこそって・・・何?まだ入部届もだしてないのに・・・」

拓真「全員分かいだよ」

凜「(あほやるおおおお!!!)」

遊牙「全員って・・・僕も?」

拓真君はにっこり笑っている・・・あ・・・ほんとに全員分だったんだ・・・。

斎藤「ま・・・までよ!DANRAN部って・・・なにするんだ?」

たしかにそれは気になる・・・

拓真「それは・・・この学校の問題をデュエルで解決するという

天才的な考えさ！」

むちゃくちゃな！

凜「・・・デュエルか・・・」

斎藤「いいね・・・」

紀村「その考え・・・」

凜・斎藤・紀村「のつた！！！！」

んなばかな！！

拓真「んじゃ、部室にあんないするよ」

凜「なにしてるの遊牙！いくよ」

僕も強制参加か・・・

DR部（DANRAN部）の部室は廃部となったオカルト研究部の部室をつかえるらしい

オカ研だから気色わるい部室かとおもったら普通の部室で

部屋の隅にストーブ、部屋の真ん中にテーブルがあり、そこには大きな箱が5つあった

拓真「みなさんはデュエルディスクをもってますか？」

みんな持っていないのは知ってるはずなのにもっていると知らない感じできく・・・まさか・・・

拓真「この5つの箱には・・・デュエルディスクがはいってます！！」

凜「デュエルディスク！！？」

やっぱり・・・でも・・・どうやって用意したんだろう・・・

拓真「このデュエルディスクは紀村につくってもらったのさ！」

紀村君は機械をいじって右に出るものはないという伝説があるから・・・

拓真「じゃあ凜！ーやるよ」

凜のDD（デュエルディスクです略してます）
は、赤のデュエルディスクだ・・・凜にお似合いだろう

紀村君のは白のDD

斎藤君は黒

拓真君は青

僕はバトルシティで見たことのあるDDだ・・・

なんか僕だけデザインがちがうけど・・・ま・いつか

そして・・・みんな帰宅していく、明日は放課後に部室集合らしい
・・・なんでDだんらんANRANなのかが・・・わからない

そして家に帰ると研究でエジプトにいる父さんと母さんからなにか届いていた

開けると、手紙と・・・なにか首にかけるリング？のようなものが入っており
リング？には眼？のような絵が描いていた・・・
眼？の部分はパーツのようになっており、真ん中にはまっている
周りにもパーツをはめれる部分があるがパーツがみあたらない・・・
手紙を開いた・・・

- - -
- - -
- - -

遊牙へ

3年間家に帰れなくてごめんね
この手紙と一緒に入っていたリングは肌身離さずもって置いてね
それはお守りだよ
お手紙が短くてごめんね
仕事の都合だから・・・
元気にやっつてるのよ！
がんばれ！遊牙！！

パパとママより

- - -
- - -
- - -

目から・・・水滴がこぼれてきた・・・

続く

今回はながい！……

ごめんなさい……

次回より超展開ですので……

今回も

今回の注目のカード

はデュエルがないので

ありません

でわ ノシ

3話 「御坂(みさか)の裏の顔」(前書き)

がんばった！

3話 「御坂(みさか)の裏の顔」

キンコンカンコン……

チャイムの音が鳴り響き、僕たち4人(1話をみれ!!)を拓真君がDANRAN部、部室
別名DRルーム(拓真君作名)へつれていかれた。

拓真「よし!!まずは学校パトロールだ!」

凜「ちょ……待って!拓真!」

拓真「なに?」

凜「こんな部活許されるとでもおもってるの?」

斎藤「たしかにな……」

拓真「先生に……」

1日まえ・・・

拓真「先生！！学校を守る部活を作りたいです！！」

先生「！いい心がけだ！よし！許すぞ拓真！」

拓真「っていわれてゆるされた」

凜「・・・そんなことがあるのね・・・」

拓真「そついえば紀村は？さっきお前らを連れてきたときはいただ
る」

遊牙「確かにいたね」

プルルルルル プルルルルル

凜「あたしの携帯だわ」

凜「はい、もしもし」

????「お前らのとこの紀村とかいうやつはあずかった
5分以内に校舎裏に來い」

凜「えっ・・・ちよ・・・」

ツーーツーー

凜「切れちゃった・・・」

拓真「だれだった」？

凜「わかんない・・・けど・・・紀村君をあずかった
5分以内に校舎裏に來い・・・だつて」

遊牙「なんだつて!!」

拓真「いくぞ！」

校舎裏

拓真「だれかいたぞ！」

遊牙「あそこで倒れているのは・・・紀村君!!!!」

みんなが紀村のもとへ走る

バシイ!!!!

拓真君が何者かに殴られた!

????「やあ、4分21秒ギリギリセーフ・・・だねえ・・・」

遊牙「!・・・あなたは・・・御坂君!!!!」

御坂「ああそうさ」

凜「なんでこんなこと・・・」

拓真「紀村をかえせ！」

拓真君がふらふらとしながらたちあがる・・・

御坂「なら交換だ」

斎藤「交換？」

御坂「そうさ、てめえら全員デッキとこの紀村とかいうボウズと交換だ」

凜「なんですって！！」

御坂「いやなら紀村のポーズはもらっていくぜ」

拓真「・・・裏の顔か・・・」

御坂「いや・・・ちがう・・・

これが表だよ！！」

御坂「いままで天才っていう偽りの裏の顔で演じてきた・・・

だが、俺はもう転校する！だからいままでたまってきたストレスを

いっきに放つのさ！その第1回めがてめえらだよ！」

拓真「・・・てめえ・・・」

遊牙「・・・ゆるさないぞ・・・」

遊牙のころには怒りが満ちていた・・・その時！！

遊牙のくびかざりから光が放たれた！！

ときは止まっているようで、みんな動かない・・・

すると目の前の景色が変わり暗い・・・よるの砂漠らしき場所にいた・・・

遊牙「え・・・ここは？」

すると目の前に大きな石版が現れた・・・

どこからかこえがする

「遊牙・・・あなたは選ばれました・・・失われしもうひとりのファラオに・・・」

遊牙「もうひとりの・・・ファラオ？」

「心を開くのです・・・光と闇・・・2つの心を持つ少年・・・人は彼を・・・遊戯王・・・と・・・呼びました・・・」

遊牙「・・・遊・・・戯王・・・？」

すると石版の中から光が現れて遊牙の心へはいりこみました・・・

遊牙にはなぜかその光がなにかわかっていました・・・

その光も・・・おなじく・・・

遊牙「もうひとりの・・・僕・・・？」

闇遊牙「相棒・・・」

UJU

3話 「御坂(みさか)の裏の顔」(後書き)

つづくぞー！

4話 「遊牙覚醒！友をかけたアンティードュエル！」（前書き）

アンティードュエルとはなにかを賭けあってデュエルし
勝ったほうが賭けたものをもらえろというギャンブルです

4話 「遊牙覚醒！友をかけたアンティ―デュエル！」

御坂は拓真たちに交換をもうしこんでいる・・・
と・・・そのとき！！！！

闇遊牙「さてよ」

御坂「なに！！？」

凜「遊牙！！？」

闇遊牙「デュエルしろよ」

御坂「なんだと・・・」

凜「（・・・いつもと・・・雰囲気が違う・・・）」

闇遊牙「その代り俺が勝ったら紀村君は返してもらおう」

遊牙「（もうひとりのぼくー！）」

闇遊牙「（なんだ？相棒）」

遊牙「（今僕の体を動かしているのはもうひとりの僕なんだよね）」

闇遊牙「（多分な）」

遊牙「（こんなことがあるなんて・・・）」

闇遊牙「（まあ、このことは俺に任せろ）」

遊牙「（でもデュエルのルールは？しってるの？）」

闇遊牙「（ああ、相棒の中に入ったとき覚えた）」

遊牙「（わかったよ、まかせるね）」

拓真「遊牙・・・」

闇遊牙「ほら！さつさとDDデュエルディスクを用意しろ！」

御坂「じゃあてめえが負けたら全員のおっさんだぞ」

閻遊牙「ああ」

凜「遊牙!!」

閻遊牙「・・・まかせろ・・・」

閻遊牙&御坂「デュエル!!!」

両者LP4000

御坂「俺のターンからいくぜ!、ドロー!!!」

拓真「大丈夫かな・・・」

斎藤「遊牙は強い・・・大丈夫だ」

御坂「いくぜ!サイバー・ラーバァ召喚!!!」

サイバー・ラーバア LV1
ATK400 DEF600

闇遊牙「ATK400のモンスターを攻撃表示だと・・・」

御坂「ターンエンド」

闇遊牙「俺のターン！！ドロー！！」

闇遊牙「ズババナイト召喚！攻撃表示！！」

ズババナイト LV3
ATK1600 DEF900

闇遊牙「（リバースカードも奴はふせていない・・・なにかある！）

闇遊牙「ズババナイトでサイバー・ラーバアに攻撃！！」

ズババナイト サイバー・ラーバア
ATK1600 ATK400

闇遊牙「サイバー・ラーバア撃破！」

拓真「よっしゃ！大ダメージ！」

御坂「ふふふ……」

闇遊牙「……（やはり……特殊効果か……）」

御坂「サイバー・ラーバアのモンスター効果発動！」

御坂「フィールド上に表側表示で存在するこのカードが攻撃対象に
選択されたとき

このターン戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0
になる！」

闇遊牙「なに！！！」

ズババナイトの攻撃で破壊されたサイバー・ラーバアが御坂の目の
前で再生し、

プレイヤーを守った！おかげで御坂へのダメージは0！

御坂「さらにもう1つの能力！」

このカードが戦闘で破壊され墓地へ送られたとき、自分のデッキから

「サイバー・ラーバア」1体を自分フィールド上に特殊召喚できる！」

闇遊牙「・・・サーチか・・・」

闇遊牙「なら俺はカードを一枚ふせてターンエンド」

御坂「俺のターン！ドロー！」

御坂「永続魔法！強欲なカケラ！発動！！」

御坂「このカードは自分のドローフェイズ時に通常ドローをする度に、このカードに

強欲カウンターを1つ置く。強欲カウンターが2つ以上乗っているこのカードを

墓地へ送ることで自分のデッキからカードを2枚ドローする」

闇遊牙「ち・・・手札補充カードか・・・」

御坂「さらに墓地のサイバー・ラーバアを除外し・・・

ソウル
コンウォイ
靈魂の護送船特殊召喚！！」

拓真「なにいいいいいい!!」

御坂「さらに靈魂ソウルの護送船コンヴォイをリリース!!」

拓真「・・・へ？」

御坂「そして上級モンスターをセット」

凜「セット!!?」

斎藤「ああ・・・多分リバー効果を持つモンスターだな」

凜「リバー？」

拓真「裏から表になったときに効果が発生するモンスターさ」

斎藤「多分あのモンスターだな」

拓真「多分な・・・」

凜「なに？なに？」

遊牙「・・・（もう一人のぼく！）」

闇遊牙「（なんだ？）」

遊牙「（あのカードは・・・多分・・・）」

闇遊牙「（ああ・・・お前の記憶にあった・・・）」

遊牙「（多分・・・あれは御坂先輩の得意とする戦法・・・
次にリバーズカードがくる！）」

御坂「リバーズカードを1枚セット・・・ターンエンド」

闇遊牙「いくぜ！俺のターン！ドロー！」

闇遊牙「・・・あのカードをどうにかできるカードは今の手札にねえ・・・」

闇遊牙「おれはモンスターをセツト・・・」

闇遊牙「どうする・・・!!!」

闇遊牙「ズババナイトでセツトモンスターに攻撃!」

拓真「あのセツトモンスターの守備力はズババより高い・・・でも

ズババナイトの能力で・・・破壊できる・・・」

斎藤「いや!あのリバースカード!」

御坂「リバースカードオープン!」

御坂「リアクティブアーマー炸裂装甲!!!」

闇遊牙「やはりな・・・」

御坂「ズババナイトを破壊する!」

ズババの前に鎧が現れズババが吹っ飛んだ。

闇遊牙「ターンエンド」

御坂「俺のターン！ドロー！強欲なカケラの能力により強欲カウンターを1つのせる」

御坂「さらにモンスターを反転召喚！」

御坂「カードを狩る死神！」

御坂「カードを狩る死神の能力によりそのリバースカードを見て畏ならかいする！」

闇遊牙「ぐ・・・」

つづく！

今回の注目カード！

サイバー・ラーバア 光 L V 1

機械族・効果

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択されたとき

このターン戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる
このカードが戦闘で破壊され墓地へ送られたとき、自分のデッキから
「サイバー・ラーバア」1体を自分フィールド上に特殊召喚できる

ATK400 DEF600

強力な壁だね！

4話 「遊牙覚醒！友をかけたアンティードュエル！」（後書き）

がんばるぞっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2248y/>

遊戯王レイザー LEIZAR

2011年11月16日17時39分発行